Kokushikan University
4-28-1, Setagaya, Setagaya-ku
Tokyo 154-8515 JAPAN
Department of Geography & Environmental Studies
Phone: (03)5481-3231

# NEWSLETTER No.64 9 May 2016

・教員の研究室と電話番号・メールアドレス ・・・・・ 1
・2016 年度教員在室時間表 ・・・・・ 2
・2015 年度国士舘大学地理学会冬季巡検報告 ・・・・・ 3
・活躍する卒業生（6） ・・・・・ 6
・学外派遣員研究員報告 ・・・・・ 8

## 【教員の研究室と電話番号・メールアドレス】

**※地理・環境専攻専任教員は全員世田谷キャンパス（世田谷・梅ヶ丘校舎）にいます**

| | 研究室の場所 | 研究室電話番号 | 電子メールアドレス |
|---|---|---|---|
| 長谷川 | 世田谷校舎 10 号館 2F1003 研究室 | 03-5481-5247 | hasegawa@kokushikan.ac.jp |
| 岡　島 | 世田谷校舎 10 号館 2F1002 研究室 | 03-5481-3245 | okajima@kokushikan.ac.jp |
| 宮　地 | 世田谷校舎 10 号館 2F1001 研究室 | 03-5481-5278 | tmiyachi@kokushikan.ac.jp |
| 内　田 | 世田谷校舎 10 号館 4F1025 研究室 | 03-5481-5291 | uchida@kokushikan.ac.jp |
| 磯　谷 | 梅ヶ丘校舎 34 号館 8F 824 研究室 | 03-5451-8154 | isogai@kokushikan.ac.jp |
| 加　藤 | 梅ヶ丘校舎 34 号館 9F 904 研究室 | 03-5451-8154 | k2kato@kokushikan.ac.jp |

※教員が大学に在学予定の時間等は，次ページの教員在室時間表を参照してください．オフィスアワーは，基本的に先生が研究室にて，学生の質問等に答える時間です．

※オフィスアワー以外の面会・相談なども在室中に短い時間で済む用事であれば，大抵の先生は急用がない限りは応えてくれます．ただし，基本的には相談や面接等は，事前にアポイントメント（Appointment ; アポ）をとってからするようにしてください．オフィスアワーであっても，出張等で不在の場合や，他の相談者などがいるため時間が割けない場合もありますので，事前にアポを取る方がお互いに好都合です．大学生としての自覚をもった行動を心掛けましょう．

※したがって，教員の自宅，特に非常勤講師の先生宅への電話は，先生からの指示がない限りは控えてください．

※メールを活用しましょう．多くの先生が電話よりもメールでのアポの方が好都合です．ただし，教員のメールアドレスは携帯電話のものではありませんので，すぐ返信がくるとは限りません．余裕をもった連絡を心掛けてください．アポの際には，メールの標題に，学籍番号・氏名を明記してください．先生によっては，標題に番号・名前がないとメールを消してしまう場合があります（迷惑メール・ウィルスメール対策のため）．用件が必ずしも標題になくても大丈夫です．「こんにちは」といった標題のメールは即刻消される場合があるので注意してください．

# 【２０１６年度　教員在室時間表】

凡　例：

講義中　　オフィスアワー　　在室の場合が多い

※春のみ：春期のみ講義.　　※秋のみ：秋期のみ講義.

※金曜日は文学部関係の会議が集中する日です．会議のある先生は大学にいますが，ほとんど会えない場合もありますので，注意してください．第３または第４金曜日には**教室会議**（12：00～）・**教授会**（13：30～）があり，教員全員が会議に出るので，その日の午後はほぼ会うことができません．教授会の日程は年間予定表を参照してください．

| 曜日 | 時限 | 1 | 2 | 昼休み | 3 | 4 | 5 | 6 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 時間 | 9:00-10:30 | 10:45-12:15 | | 12:55-14:25 | 14:40-16:10 | 16:25-17:55 | 18:10～19:40 |
| 月 | 長谷川 | | | | | | | |
| | 岡島 | | | | | | | |
| | 磯谷 | | | | | | | |
| | 加藤 | | 秋のみ | | | | | |
| 火 | 長谷川 | | | | | | 秋のみ | |
| | 内田 | 春のみ | | | | 秋のみ | | |
| | 岡島 | | | | | | 春のみ | |
| | 磯谷 | | 町田校舎 | | | | 秋のみ | |
| | 加藤 | | | | | | 春のみ | |
| | 宮地 | | | | | 春のみ | | |
| 水 | 長谷川 | | | | | | | |
| | 岡島 | | | | | | | |
| | 磯谷 | | | | | | | |
| | 加藤 | | | | | | | |
| | 宮地 | | | | | | | |
| 木 | 長谷川 | | | | | | | |
| | 内田 | 春のみ | | | | 秋のみ | | |
| | 磯谷 | | | | | | | |
| | 加藤 | | | | | | | |
| 金 | 長谷川 | | | | | | | |
| | 内田 | | | | | | | |
| | 岡島 | | | | | | | |
| | 磯谷 | | | | | | | |
| | 加藤 | | | | | | | |
| | 宮地 | | | | | | | |
| 土 | 内田 | | | | | | | |

## 【2015 年度　国士舘大学地理学会冬季巡検報告】

2015 年度 2 回目の巡検となる冬季巡検が 2016 年 3 月 4 日に東京都内で行われました．今回の巡検は「東京の移り変わり～江戸時代と現代の土地利用の比較～」をテーマに学ぶことにしました．参加学生は計 6 名（1 年生 4 名，2 年生 2 名）で，引率は宮地先生にお願いしました．

2015 年度　国士舘大学地理学会　冬季巡検行程表

・日　　程：2016 年 3 月 4 日(金)
・テ　ー　マ：東京の移り変わり～江戸時代と現代の土地利用の比較～
・引 率 教 員 ：宮地忠幸先生
・集　　合：9：30　JR 市ヶ谷駅改札口
・解　　散：16：30 浅草寺
・行　　程：徒歩，電車，[redacted] 水上バス

市ヶ谷駅（9：30 集合）番町界隈永田町憲政記念館日本水準原点国会議事堂前霞が関（官庁街）日比谷公園有楽町駅前（昼食）銀座・京橋界隈東京駅周辺浜松町世界貿易センタービル日の出桟橋[redacted]（隅田川沿岸地域を船上から見学）浅草浅草寺（16:30 解散）

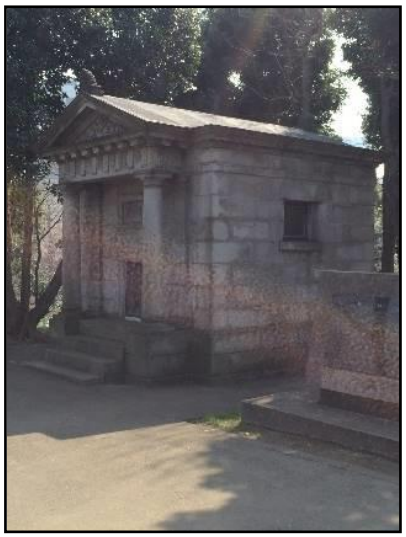
図 1　東京都心巡検の概要

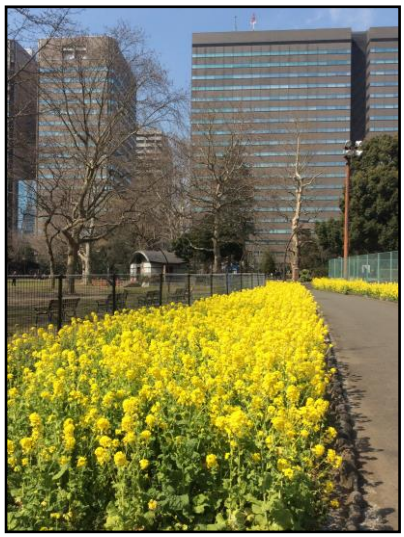
当日は，まず JR 市ヶ谷駅で集合した後，番町界隈を歩きました（写真 1）．この地域は，江戸時代に武家屋敷が数多くあったところで，いまは，学校や大使館などが立地しています．また，マンションやオフィスビルが 1960 年代の後半ころから増加したようです（配布資料による）．その後，半蔵門（写真 2），永田町を経由して憲政記念館へ行きました．かつての大名屋敷の跡地に建てられている憲政記念館では，議会制民主主義の仕組みや歴史について学びました．憲政記念館にほど近い「国会前庭北地区」の庭園内にある日本水準原点も見学しました（写真 3）．ここは，全国の主要道路沿いに設置されている水準点の高さの基準となっているところです．国会議事堂を横目にみながら，山の手台地から下町低地へ移動していきました．今の霞が関一帯も，かつては多くの大名屋敷があったところだそうです．明治期以降は，陸軍の用地になったところもありました．「野音」で有名な日比谷公園は，江戸時代に複数の大名屋敷があったところで，明治期以降に陸軍練兵場となり，その後公園として整備されたそうです（写真 4）．有楽町まで出て一次解散となり，各自昼食をとりました．

写真 1．江戸時代の土地利用について解説する宮地先生

写真 2．半蔵門を背景に参加者で記念撮影

昼食後は，有楽町から銀座，京橋，東京駅へと歩きました．日本で最も地価の高い銀座周辺（写真 5）は，高級ブランド店がたくさん立地しており，平日だった当日も多くのお客さんで賑わっていました．東京駅の八重洲口側には，数多くの銀行がみられました．日本の金融機関の集積地であるとの説明を受けました（写真 6）．また，駅周辺を中心に建物の新築工事が進められていました．その後，東京駅の丸の内口側へ移動し，新しくなったレンガ造りの東京駅





（左）写真 3.
国会前庭北地区にある
日本水準原点標庫

（右）写真 4.
菜の花が咲く日比谷公園

写真 5. 銀座の象徴：銀座四丁目交差点の和光本館の時計台

写真 6. 東京駅周辺に集積する金融機関

を眺めました（写真 7）．丸の内口側一帯も，盛んに街の再開発が進められてきたところです．現在も，丸の内口の北側の大手町一丁目地区を中心に，再開発が進められています．東京駅からは電車で浜松町まで行き，浜松町駅からほど近い世界貿易センタービルに行きました．貿易センタービルの展望台から，東京都心部を眺望しました．印象的だったのは，ビルの北側にある汐留地区の景観でした．オフィスビルだけでなく高層のマンションもありました．最近，都心部で人口が増えているというようで，新しいオフィスビルやマンション建設が進むなかで，都心部が若い核家族の居住地となっているそうです（写真 8）．

写真 7. レンガ造りの東京駅丸の内口側駅舎

写真 8. 世界貿易センタービルからみた汐留方面

世界貿易センタービルを後にし，日の出桟橋へ向かいました．ここから水上バスに乗って，浅草に向かいました．日の出桟橋からは，多くの外国人旅行客の皆さんと一緒に水上バスに乗りました（写真 9，10）．水上バスは隅田川を上るルートだったので，様々な橋をくぐりながら，下町の様子なども見学できました（写真 11，12）．勝鬨橋などは，特徴的で新鮮でした．浅草に到着して，浅草寺まで移動し，江戸時代における浅草の位置的な特徴，観光地化した浅草寺一帯を見学して解散となりました（写真 13，14）．

写真 9．日の出桟橋での集合写真

写真 10．同乗した多くの外国人観光客の皆さん

写真 11．勝鬨橋

写真 12．水上バスからみた東京スカイツリー

写真 13．最後の見学地・浅草寺

写真 14．雷門の前で最後の挨拶をする私

今回の巡検を通して，東京で学生生活を送る私たちの身近な地域が，大きく移り変わってきたことを学ぶことができました．引率いただいた宮地先生の案内や参加者の協力もあり，大きな問題もなく無事に巡検を終えることができました．ありがとうございました．

国士舘大学地理学会行事部　　西原　崇太

※写真の出典：写真 1，3，5，7，8，11，12，13 は筆者撮影．写真 2，4，6，9，10，14 は宮地先生撮影．

## 【 活躍する卒業生(6) 】

シリーズ「活躍する卒業生」の第 6 回目．今回は，1990 年度に地理学専攻を卒業された柴田　剛さんです．柴田さんは，現在　株式会社　エアロ・フォト・センターにお勤めです．学生時代に学んだ空中写真判読や地域調査のスキルをフル活用され，ご活躍です．お忙しい年度末から年度はじめに柴田さんから貴重な原稿を寄せていただきました．

--*--*-*--*--*--*-*--*--*--*-*--*--*--*-*--*--*--*-*--*--

### 私の業務経歴について　―地図関連業務を続けて―

株式会社　エアロ・フォト・センター　営業部　　柴田　剛

私は，1991 年 3 月に国士舘大学文学部史学地理学科地理学専攻を卒業しました．所属のゼミは長谷川先生のゼミでした．在学中から地図制作関連の業界に関心があり，今まで一貫してそのような業界で活動してまいりました．以下，私の業務経歴についてご説明致します．在学中の学生のみなさまのご参考になればうれしく思います．

職務経歴（2016 年 4 月 1 日現在）

■内外地図株式会社（1991 年 4 月から 2008 年 6 月）　http://www.kkapc.co.jp/

事業内容：地図調製（企画・製作・印刷一貫作業）
地図類の販売，国土地理院発行地図全国発売元
GIS 関連業務（データ作成及びシステム開発）ESRI 代理店

1991 年 4 月～1991 年 8 月

・幕張工場にて作業支援を行いながら，地図調製の作業工程の研修を行いました．

1991 年 8 月～1998 年 6 月　営業 2 部に所属

・自治体を主たる顧客とした地図調製の新規顧客開拓にあたりました．

1998 年 6 月～2004 年 6 月　組織改編により営業開発部に所属

担当した顧客

・自治体営業先
　静岡県・山梨県・関東農政局・関東地方整備局・東京国道事務所・京浜河川事務所
・民間企業
　民間コンサルタント企業・制作会社・学校法人・環境保護系 NGO
・衛星画像関連サービスの商品化
　NTT データ GC 社製 BASEIMAGE の販売と企画制作を担当しました．
・日本地図センター　ネット販売サービス事業の立ち上げに参加しました．

2004 年 6 月～2008 年 2 月　新規開拓の減少により自治体営業担当を離れる

担当した業務

・民間企業
　民間コンサルタント・制作会社・学校法人・環境保護系 NGO
・衛星画像関連サービスの商品化の強化
　Earth Clip の企画及び販売・画像パネル・鳥瞰図画像等の利用促進
・営業担当との連携
　自治体担当営業を連携し受注確立を上げるためのデモデータの作成や，製作現場と連携して製作進行を行いました．
・販売部門との連携
　スーパーバイザー（仮称）として一般向け地図データの商品説明やデモ，販売店員研修を行い，店頭販売実績向上に努めました．また，販売店等に問い合わせのあった顧客の追跡営業を行うとともに，新たな商品購入や製作受注と開拓を行いました．

・社外との連携
社団法人日本地図調製業協会研究教育委員会
会員（一般向け）研修企画運営や国土地理院依頼の受託研究を他社所属委員と担当.
・NPO 法人地図文化研究会研究員
稲城市と連携をし，「いなぎ子ども地図教室」を企画運営.

■株式会社エアロ・フォト・センター（2008 年 7 月から現在）　http://www.kkapc.co.jp/
事業内容：航空写真関連業務（撮影計画・撮影・図化・地形データ・オルソ作成）
画像アーカイブ作成（空中写真フィルムスキャニング・大判図面スキャニング
大判プリント（出力・加工）
地図制作（企画・編集）
各種現地調査（都市計画関連・GNSS・TS 計測）
ドローンを活用した高精細画像の取得とデータ解析

・企画営業部長として各種地図データの構築と活用方法の提案を行い，新規顧客の営業を行っています.

■特定非営利法人シクロツーリズムしまなみ（平成 14 年 5 月から現在）　http://www.cyclo-shimanami.com/
事業内容：(1) 地域，観光振興に関する情報提供
(2) 地域，観光振興に関する調査研究
(3) 地域，観光振興に関する人材育成
(4) 着地型旅行等，旅行業法に基づく旅行業
(5) 地域，観光振興に係る商品の開発・販売
(6) 上記の活動を行うために必要な宿泊，飲食，展示棟の各種施設，ガイドツアー，ネット販売等の企画運営

※ここは，愛媛県今治市にある NPO 法人です．自転車を活用して地域振興を行う団体です．サイクリングガイドツアーの企画運営・今治駅前のゲストハウスシクロの家，シクロカフェの運営，ガイドマップ，ガイドブックの出版，サイクリングお役立ち商品の企画販売．自転車活用街づくり事例の講演，自治体からの受託業務などをおこなっています．私は，地図情報担当として，地図利用のワークショップの講師や各種ガイドブック・ガイドマップの企画制作を行っています（現在進行中）.

転職はしていますが，私は測量士（1998 年 2 月取得），森林情報士 GIS 部門（2011 年 3 月取得）などの資格をとりながら，基本的に地理空間情報を作り出す企業に属してきました．業務をするに当たって，いつも考えている事は以下の 3 つです.

・探す　　求められている地図情報を探し出し，最適なものを提供する.
・作る　　それがない場合は，最適なものを作り出す.
・活用する　　最適な活用方法を提案する.

私が関わる業界は，これから先 10 年，20 年後になると，かなりの業務が自動化されると予想されます．それゆえ，ディレクションとマネジメントの技術を身につけて，自分自身を進化させていくことが重要だと思います．現在，勉学に励んでいる学生の方には，特にそうした部分を意識して学んでいくことが重要であると思います.

私は，在学中，優秀な成績をとる学生ではありませんでした．しかし，先輩や先生方に様々なフィールドに連れて行っていただいた経験は，現在でも活きていると感じています．また，空中写真判読などは，学生時代に学んだスキルでしたし，今まさにこのスキルが役立っています．大学は，問題可決に至る思考の基礎を学んだり実践したりするところだと思いますので，実習やフィールドワークでの経験は大切だと思います．一方，様々な技術は，日々進歩するので，在学中に学んだ技術は古い技術になってしまいます．しかし，それぞれの技術の基本を押さえておくことが，新たな技術への対応も容易にするのだと思います.
地理学教室で経験した事を活かしていただければ，将来的には様々なプロジェクトのリーダーになって活躍できると思います．そのような卒業生の方にお会いできる事を楽しみにしております.

## 学外派遣研究員 報告 －私のいたチューリッヒ大学地理学教室－

私，加藤幸治は2015年度国士舘大学学外派遣研究員として，1年間，スイスのチューリッヒ大学に滞在しました．「難しく」言えばこうなりますが，要はスイス・チューリッヒ大学に「留学」していたということです．「留学」とはいえ，教員ですので，講義を受けるとかいうことは基本的になく，「研究」という「仕事」をほぼ全てとする 1 年間でした．スイスにはおりましたが「仕事」の「お足」は国士舘大学からいただいておりました（笑）．なので，学外派遣の研究員というわけです．

滞在先のチューリッヒ大学（現地語であるドイツ語表記ではUniversität Zürich）は，その名の通り，スイスの主要都市の一つであるチューリッヒにある「州立大学」です．国立でも私立でもなく，公立大学ということになりますが，スイスの大学の多くが公立大学です（現在の日本か，それ以上に大学は連邦・地方政府からは「独立度」が高いので，独立行政法人に近い形ですが，発祥としてはカントン（州）が主体となった大学という意味程度の「州立大学」です）．

スイスには，いわゆる国立大学は2つしかなく，いずれも工科大学です．連邦工科大学チューリッヒ校と連邦工科大学ジュネーヴ校と呼ばれることが多いです（日本語の正式名称がないので，人によって表現が違います．国立工科大学と書かれている場合もあります）．このうち前者は，正式名称であるEidgenössische Technische Hochschule Zürichの頭文字からETH（イーテーハー）と呼ばれています．

チューリッヒ州のチューリッヒ市（正しくはカントン・チューリッヒのスタット・チューリッヒ）には連邦工科大学チューリッヒ校と私のいたチューリッヒ大学とが主要な大学としてあり，前者は普通ETHと呼ばれ，後者はUZHとかUni（ウニ）と呼ばれます．私も最初は自分の所属をUniversity of Zurichと説明していましたが，それだけだと「チューリッヒの大学」と理解されて，どちらかが釈然としないらしく，滞在中の後半以降は「Uni」が所属であると話していました．ところがこれは，地元の人には通じても，外国人には通じにくい場合があるので，結局は両方を話したり，UZHという正式略称も交えて説明するということも少なくありませんでした．

東京大学の人に「大学はどこですか」と尋ねると，「東京です」と「正しく」答える人がいますが，それだと私を含め多くの人が「はっ？」と疑問を抱いてしまうのと似ているような気がしました．「東大です」と答えてくれないと「東京の何大学？」とつい聞いてしまうのと同じ感覚なのだと思います．

さて，その「Uni」の中で，私はもちろん，地理学・経済地理学の研究をしていましたが，所属学部は自然科学部（数学・自然科学部）でした．理系です．学部名がはっきりしないのは英語表記・ドイツ語表記が統一されていない（ように思う）のですが，どっちが正式なのかはよく分からなかったからです．というのも，その中に地理「学科」が属するのですが，これが何事においても「基礎単位」であり，それが何学部に属しているとかいうことはほとんど気にする必要もないからです．

これはスイスという国とカントンの関係とも通じるところです．日本人にとって国という「組織」は比較的明確なものと考えられる存在ですが，スイスにおいてはこれが実は曖昧です．「基礎単位」は完全にカントンであり，カントンには憲法・議会・課税権があります．日本人的に言えば，「日本人にとっての日本」のような存在がカントンであり，「日本も属するアジア」というような存在が，スイス連邦ということになります．もっとも一般的な日本人がアジアに感じる「帰属意識」よりは遙かに強い「帰属意識」をスイス連邦に持っています（徴兵による兵役があり，男性は基本的にスイス軍に属するということもあると思います）．また日本人がアジア人と感じる以上に，ヨーロッパ人であるという感覚は強いようです．この辺のことは詰めれば詰めるほど難しい話になりますが，「ヨーロッパの環境と人間生活」でも考えてもらうことですので，そちらを是非受講下さい（笑）．

話を戻せば，地理「学科」は正確にはGeographisches Institut（ドイツ語）です．ドイツ語のInstitutは英語ではInstituteであり，直訳すれば「研究所」ということになるでしょう．研究所というよりは「研究科」というのが日本的な説明になると思います．大学院生は存在しますが，地理の学生はいない（ようだ）からです．この辺も日本ではあまり見かけない仕組みなのでわかりにくいと思います．もしかしたら，私の認識も間違っているところがあるかもしれません．実はこうした制度の差についての理解は，簡単なようで難しいものだからです．お互いの差があることを一定程度分かってないと質問の意図さえ理解してもらえなかったりするからでもあります．

おまけに，地理学「研究科」の英語表記はDepartment of Geographyとされていることが多い（英語メールや発行文書等に書かれている）ので，説明は余計ややこしくなります．これには，日本でも大学によって，地理学科だったり，地理専攻だったり，地理学コースだったりするのと同じような事情があります．学科や専攻といった違いはあっても，各大学の地理学の「ユニット」は普通「〇〇大学地理学教室」と名乗り，それを英語で Department of Geography と表現するのと似ています．世界中どこでも，学問に関係ない制度・組織の違いは無視して，実質的なまとまりを「単位」とするだということなのでしょう．私のいたチューリッヒ大学地理学教室もまさにそういうところだったということです．

地理学教室内はいくつかの「講座」に分かれています．「講座」というのは大学特有の古い言い方ですし，

Department が直訳になるので，別の言い方が必要になります．それをチューリッヒ大学地理学教室ではそれを「グループ」という言い方にしていました（ドイツ語では Gruppe が「正しい」のでしょうが，英語の Group という言葉をそのまま使っていました）．

私はその中で通称 WGG に所属していました．WGG は Wirtschaftgeographie Group の（意味上の区切りの）頭文字を取ったものです．つまり Wirtschaft（経済）geographie（地理学）Group（グループ）です．グループには基本的に１人だけ教授（テニュア（永久教授権）をもつ先生）がいます．なので，長谷川ゼミや宮地ゼミをグループと言うのとほぼ同じです．先生の名前ではなく，専門の内容によってグループをあらわしている感じで，地形ゼミとか農村・農業地理学ゼミといっているようなものです．

WGG の教授は Christian Berndt というドイツ人でした．歳は私の３つくらい上．クラーク大学（アメリカ合衆国）の青山裕子教授（経済地理学分野における世界的に著名な日本人の先生．『経済地理学 キーコンセプト』という訳本が日本語で読めます）が知っているというので，行く前に「Christian Berndt 氏はどんな人？」と尋ねたことがありますが，曰く「いいやつ」とのこと．そのときは「？」という気もしましたが，滞在して分かりました．（歳上ですが）「いいやつ」という人でした（笑）．サッカー好きのドイツ人ですが，日本に来たことはなく，日本のこともよく分かってはいないらしく，日本人＝ブンデスリーガで活躍する日本人という感じで，苗字も Okazaki とか Kagawa とかは知っているが Kato なんて初めて聞くって感じでした（笑）．

WGG では学期中に週一ペースでコロキウムがあります．博士課程所属の院生以上の自主的なゼミという感じです．そこでは基本的に英語で発表・議論が行われていました（なので，私も「一応」参加できます）．研究の公表は発表にしろ・論文にしろ英語の方が広く認められやすいという事情と，そうした事情を踏まえた Berndt 教授の方針からのようでした．それもあってか，WGG にはスイス人以外も多いです．学年の途中ということで入れ替わりもありましたが，WGG にいた外国人はドイツ人，オーストリア人（ドイツ語母語）以外には，アメリカ（合衆国）人，イスラエル人，そして私という感じでした．スイス人でも中国系スイス人という人もいました．

私は，WGG の人だけではなく，いくつかのグループ（GIS 的なことをするグループや人文地理学グループ）の人が混在する 5 人部屋に机をもらっていたのですが，そこは，最初はポーランド系スイス人，イスラエル人（WGG の人），ドイツ人，トルコ人，そして日本人（私）というメンツでした．その後，入れ替わりでクロアチア人，チェコ人，スロベニア人とも同室になりました．イスラエル人，クロアチア人，チェコ人，スロベニア人と会う・話すというのは，個人的にはまったく初めての体験でした

こうなると共通語は完全に英語です．英語の大事さはよーく分かりました．英語力が向上したかは別ですけどね（笑）．

おいおい，こんな話はどーでもよい！スイス「らしい」写真が見たい・話が聞きたい！せめて，普段の生活とかの話が聞きたい！という人もいるかもしれません（笑）．とはいえ，許された紙幅には到底収まりそうにありません．それは次号以降の Newsletter か，別の機会にしたいと思います．

（加藤幸治）

WGG のメンツ（一部外部者も含む）
Berndt 教授は後列左から 3 人目（私の後）．

帰国前に研究室前の廊下にて
チェコ人・アリズベータさんと．
（英語風に言えばエリザベートさん）

**※ 国士舘大学地理学会（2016/6/11）では講演会にて，加藤先生からスイスの話が聞ける予定です．**
**OB・OG を含め，興味ある皆さんの参加をお待ちしています．**